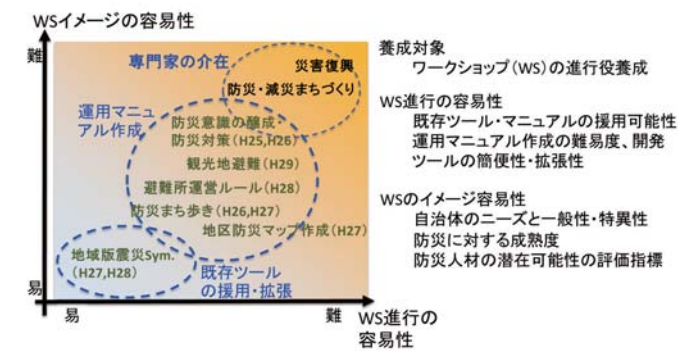


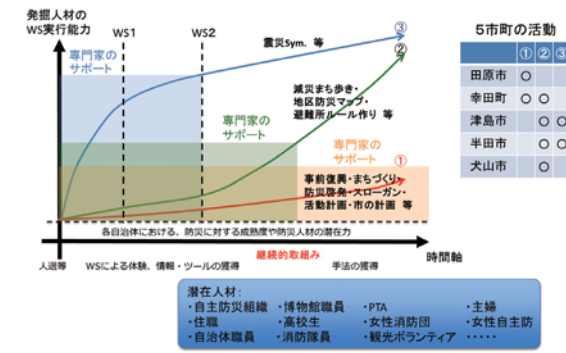
図17は、④のWS進行役としての地域防災人材を発掘する観点から、実施イメージの容易性を縦軸に、進行(ファシリテート)の容易性を横軸にして、これまでに実施したWS等を位置づけたものです。H27、28年度に実施した震災シミュレーションゲームは、オリジナルが存在することから、これをベースに地域版に作り替えていくWSは比較的容易です。一方、災害復興や防災・減災まちづくり等はかなり専門性が高いことから、専門家の介入が必要です。その他の年度で実施したWSはこれらの間に位置づけられると考えます。

どの程度訓練を行えば地域で自立して実施できるかをグラフで表したものが図18です。縦軸が実行能力、横軸がWSの実施回数等の時間軸を表します。曲線が横軸に近いほど、実施が難しいことを意味しています。また、グラフの下には、進行役が担える可能性がある地域の潜在人材候補を示しています。これらの図が、地域の人材や地域の課題に対するテーマの選定や練習期間等を検討いただく際の参考資料になれば幸いです。

【図17】地域で実施可能なWSを目指して



【図18】WSテーマと人材発掘の整理



文部科学省委託業務(H25年度～H29年度)
地域防災対策支援研究プロジェクト

②研究成果活用の促進

「地域力向上による減災ルネサンス」

最後に、本プロジェクト推進するにあたっては、委託元の文部科学省研究開発局地震防災研究課、運営委員会の委員でもありWSを実施させていただいた5市町の他、愛知県、東京大学、名古屋都市センター、(有)アシストコム、及び名古屋大学の関係各位に多大なるご協力を賜りました。ここに改めて感謝の意を表します。

●発行

名古屋大学減災連携研究センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学減災館
TEL : 052-789-3468 FAX : 052-789-5023
http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/



減災連携研究センター

2018.2

②研究成果活用の促進

「地域力向上による減災ルネサンス」

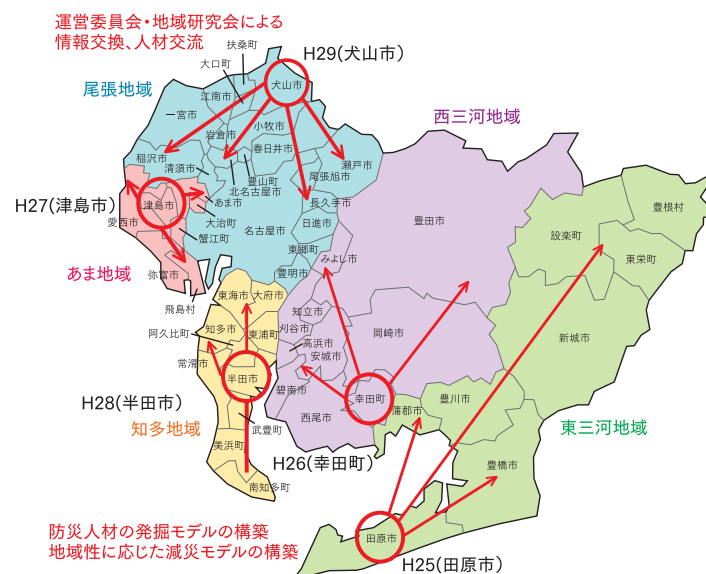
地域防災対策支援研究プロジェクトについて

本プロジェクトは、愛知県内の人口10万人程度以下の市町の中から、地形・地質、自然災害履歴、災害危険度、産業構造、歴史的背景が異なり、かつ減災対策に対してやる気のある市町をモデル地区として毎年1カ所(5年で5カ所:図1、表1)選定しています。

そして、最新の地震防災科学技術研究成果を最大限に活用するとともに、各地域の歴史的・地理的資料や人材等の災害対応力を含めた、防災・減災に関する情報収集を行います。これらを基に、ワークショップを自治体職員、住民等の連携で開催し、地域の課題、ニーズの洗い出しを行うとともに、減災まちづくり・震災復興準備について検討することで、適切な防災・減災対策への道筋をつけます。

また、地域報告会により、これら5市町を突破口とした、同様な地域特性を有する他の市町村への本成果の普及・展開を目指します。

【図1】本プロジェクトで対象とした5市町



【表1】対象5市町の特徴

年度	地勢	産業	その他	歴史	過去の災害
H25	田原市 (東三河地域)	トヨタ 農業	半島	田原藩 渡辺華山	1707年宝永地震 1944年東南海地震
H26	幸田町 (西三河地域)	デンソー 農業	内陸 深溝断層	松平家 島原 本光寺	1945年三河地震
H27	津島市 (海部地域)	紡績 ヨシヅヤ (大型店舗)	海拔0m 液状化	津島神社 伝統的祭り	1891年濃尾地震 1959年伊勢湾台風
H28	半田市 (知多地域)	酢・酒 港	軟弱地盤	伝統的祭り 新美南吉 生誕100年	1944年東南海地震 1959年伊勢湾台風
H29	犬山市 (尾張地域)	観光地 明治村 モーターバイク 名鉄	山地	町並み 犬山城 成瀬家	1868年入鹿池決壊 1891年濃尾地震

1 平成25年度活動

平成25年度は、田原市を対象に実施しました。

ワークショップ開催に当たり、タブレットに搭載するデータとして、旧版地図、標高データ、南海トラフの巨大地震に対するハザード情報(震度、液状化危険度、津波高など)、人口分布や地震災害の史跡等(図2)を収集しました。

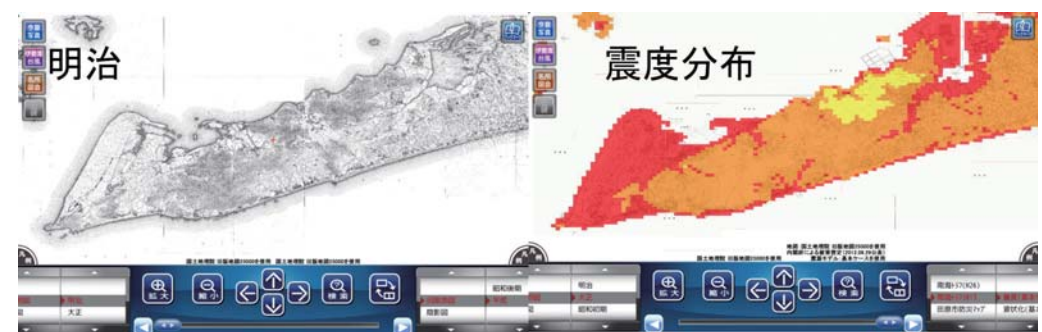
ワークショップでは、参加した3学区、合計26名の他、田原市役所職員、ファシリテータとして名古屋大学関係者が加わり、

1. 地区の良いところと悪いところ、
 2. 今南海トラフの巨大地震が発生したら困ること5項目、
 3. 2030年に南海トラフの巨大地震が発生したと想定した場合の理想の姿とそれに向けての対策
- についてグループワークにより抽出し①、B紙にまとめて発表しました。グループワークは大盛況で、アンケート結果では、他地域の意見を聞いて良かった、毎年やって欲しい等の好意的な意見と、もう少し早く開催して欲しい等の要望もありました。(図3)

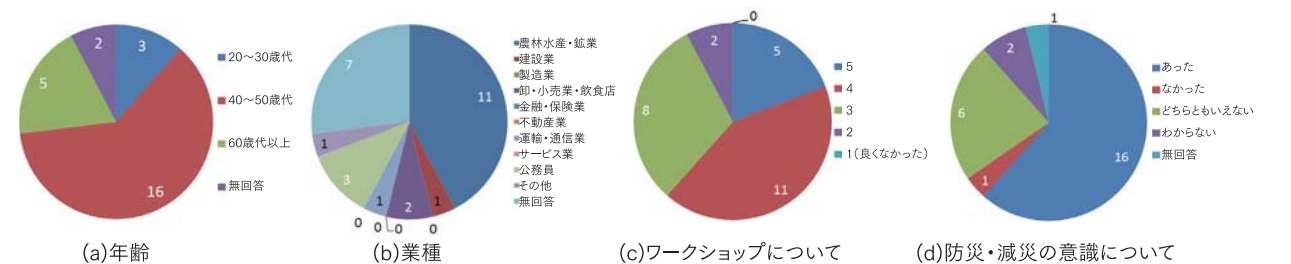
①田原市で実施したワークショップの様子



【図2】用意したデータの一例



【図3】ワークショップ参加者(男24、女2)の構成とアンケート結果の抜粋



2 平成26年度活動

平成26年度は、幸田町を対象に実施しました。

午前は、幸田町立深溝小学校PTA主催の全校を対象とした防災まち歩きを共催で実施し(②)、午後のワークショップは、防災まち歩きに参加されたPTA役員とその児童(PTA13名(男2名、女11名)、小学生(高学年数名)、校長、教頭、教員1名)の他、幸田町職員3名、名古屋都市センター職員1名、副住職1名にご参加いただき(図4)、4つのグループに分かれて実施しました(③)。また、ファシリテータ、その補助役等として名古屋大学5名、及びコンサル会社より4名も参加しました。

ワークショップでは、新しい試みとして、児童にも参画してもらおうとともに、幸田町職員や寺の副住職といった地元の方にファシリテータをお願いしました。また、他のプロジェクトで検討中のプロジェクトを用いた手法を試みました。

今回のワークショップの特徴は、過去に地震災害を起こした断層(深溝断層)がある地域であること、防災まち歩きを合わせて実施したこと、2つの異なったツールの採用、地元のファシリテータの養成等が挙げられます。

②幸田町で実施した防災まち歩き(午前)の様子



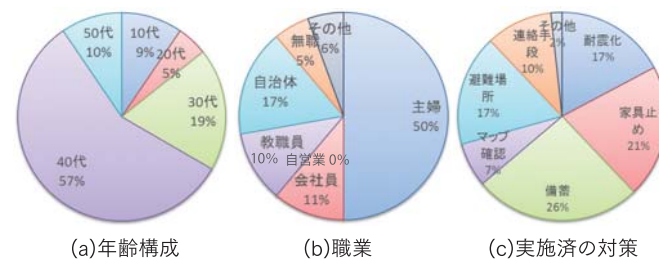
③幸田町で実施したワークショップの様子(午後)の様子



(a)プロジェクターを使用

(b)タブレットと白地図を使用

【図4】参加者の特性



(a)年齢構成

(b)職業

(c)実施済の対策

【図5】防災まち歩きで用いられた地図



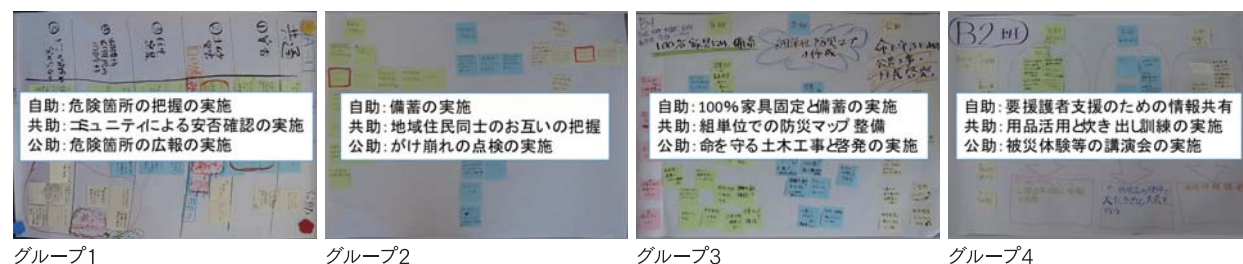
【図6】用意したデータの一例



(a)旧版地図

(b)高齢者数と防災マップ

【図7】完成した意見集約(地域の宣言)



グループ1

グループ2

グループ3

グループ4

●ワークショップの日程は以下の通りです。

9:00~12:00: 防災まち歩き(深溝断層周辺:図5、②)

12:30~16:10: WS(於:深溝小学校)

1. プロジェクトの概要・趣旨説明
2. 進め方やタブレット使用方法の解説(図6)
3. 解説(過去の災害の話・将来の災害の話)
4. Session 1
 - ▶簡単な自己紹介 ▶深溝学区の防災マップの作成
 - ▶深溝学区のまち歩きや防災マップを作成し、自然災害に関し深溝学区での心配事を列挙
5. Session 2
 - ▶南海トラフの大地震に対して15年後までにやっておきたいこと
 - ▶自助、共助、公助の視点からの整理 ▶まとめ
6. 各グループ発表

ワークショップでは、参加者の皆さんが全員積極的に取り組んでいただき(③)、各グループで特徴のある成果を取りまとめられました(図7)。

今回のワークショップを通じて、

- 住む街の特性(ハザード等)が確認できた。 ●比較的若い人にも参加していただいた。
- ファシリテータに地域の方をお願いして、新たな人材発掘の可能性が見出せた。
- 参加者が気づいていない課題を専門家が情報提供し、さらに認識を深め、それを基に意見交換するステップが必要である。等の成果や課題が抽出できました。

参加者からは、

- いろいろな意見・発見があり良かった。 ●将来のためになった。危険箇所等がわかり、よかった。
- 小学生も含め皆が意見を出せてよかった。 ●地元行政の参加は必要。
- 意識が高まった。地域内の連携が重要と感じた。等の意見が寄せられました。

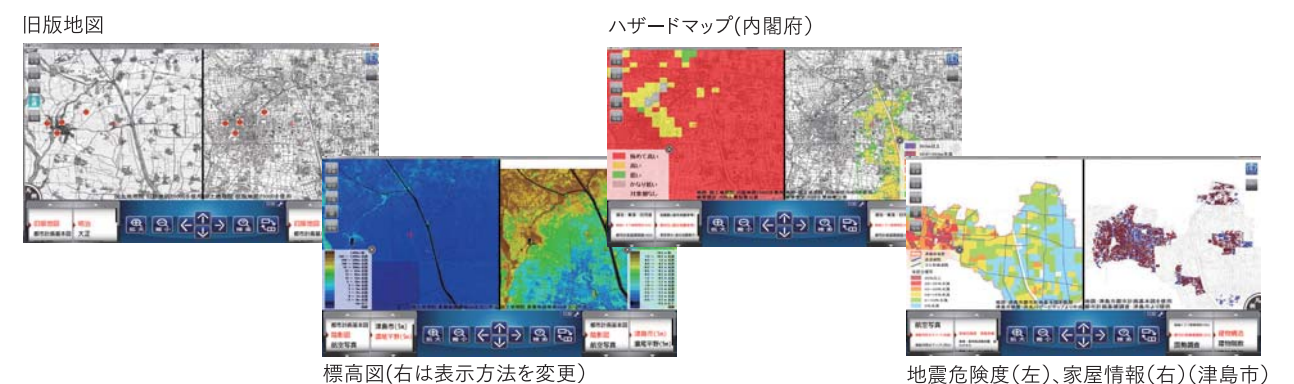
3 平成27年度活動

平成27年度は、津島市を対象に実施しました。

津島市が、自主防災会等を中心として、地区防災力向上を目指して活動を行っている地域であることに着目し、新たなステークホルダーとして高校生(ボランティア部)を巻き込んだ取り組みを行いました。これにより、高校生の防災ボランティアへの意識の醸成を図り、地域の防災・減災活動の新たな担い手になってもらうとともに、将来的には学区間を繋ぐリエゾンの役割を果たしてもらえることを期待しています。

具体的な活動としては、12月12日(日)午前、津島市の歴史や地域特性、災害危険性、将来予測等(図8)に関する話題提供を行い、地域を知ること、災害に備えて自分たちができることを考えてもらう機会となりました。

【図8】津島市で収集した災害基盤情報の例



標高図(右は表示方法を変更)

地震危険度(左)、家屋情報(右)(津島市)

これに引き続き、名古屋大学の学生災害ボランティアサークルによって開発された震災シミュレーションゲーム (http://www.geocities.jp/shinsai_g/)を実施しました。また、午後には、津島市の取り組みの一環として実施された蛭間小学校区における防災まち歩き、及び防災マップ作り高校生も参加して、自主防災組織の方々との協働作業を行いました。

当日は、津島市内の3つの高校から、生徒14名、引率教員4名、蛭間学区の地域住民約30名、NPO法人より震災シミュレーションゲーム作成者1名の他、名古屋大学関係者5名、コンサル会社より8名が参加しました。

●当日の主な日程は以下の通りです。

- 10:00～10:45:高校生を対象とした防災講話(④)
- 10:45～11:45:震災シミュレーションゲーム
- 11:45～12:00:振り返り
- 12:00～13:00:昼食・スマホアプリの使い方
- 13:00～16:00:蛭間学区まち歩きと防災マップの作成

震災シミュレーションゲーム(図9)では、すごろく形式で発災時から避難場所に避難するまでに起こりうる様々な出来事を疑似体験し、発災時の対応等について楽しみながら学びました(⑤)。

振り返りでは、感想の他に、改良点等を挙げてもらいました。その中では、防火対応や非常持ち出し袋の重要性、周りの人と協力する大切さなどを学んだ等の感想、及び通学中での避難を考える、その時の気持ちにあった色でマスを作る、壊れた建物などの写真を使うなど、様々な改良案が示されました。なお、今回参加してくれた高校生には、各地域で使えるオリジナル震災シミュレーションゲームを作成してもらう予定です。

地域住民の協働による防災まち歩きと防災マップ作り(⑥)では、お互いに緊張感が漂う中で開始されましたが、まち歩き後の防災マップの作成の段階では、協働で会話をしながら、楽しく作成作業をする様子が見られ、当初の目的はある程度達成されました。

今回のまち歩きでは、他のプロジェクトで開発中のスマホアプリ(図10)を高校生を対象に試験運用し、有効活用することが出来ました。

次年度は、半田市で実施予定です。

【図9】震災シミュレーションゲーム
(一時避難編http://www.geocities.jp/shinsai_g/)



④タブレットを使った防災講話



⑤震災シミュレーションゲームの様子



⑥津島市内の高校生と地域住民の協働による防災まち歩きと防災マップ作り



【図10】スマホアプリとタブレットによるまち歩きツールの採用



4 平成28年度活動

平成28年度は、半田市を対象に実施しました。

半田市では、女性の活力を活かした取組みを推進していることから、女性(特に女性消防団員)を中心とした活動を行いました。また、本プロジェクトでは、これまで特性の異なる参加者を対象として、異なる手法を用いたワークショップ(WS)を実施してきており、今後は、それらの成果の横展開についても検討を進めていきます。そこで、今年度は、これまで3年間の活動成果の活用と地域防災人材の発掘の観点から、WSの進行役(ファシリテータ)を担える人材を養成する試みを視野に入れた取組みとして、半田市において防災・減災の課題として挙げられている「避難所運営」と「防災教育」をテーマとした2回のWSを実施し、これを進行する地域防災人材の養成を試行しました。

第1回は、WSの進行役候補(「防災サポーター」)である女性消防団員を中心とした地域住民を対象とする取組みを行いました。第2回は、実習として、これらの防災サポーターが進行役を務める地域住民を対象としたWSを実施し、課題等を抽出しました。

WSの具体的な目標として、「避難所運営ルール作成」と昨年度の活動の展開も視野に入れた「地域版震災シミュレーションゲーム作成」を掲げました。なお、この活動に活用する地域特性に関するデータの収集、及び、タブレットへの搭載は、WSの開催に先立ち例年通り実施しました(図11)。WSの実施概要は次の通りです。

第1回ワークショップ(⑦)

日時:平成28年12月17日(土) 9:00～15:30

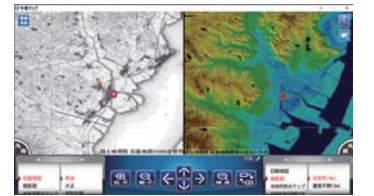
参加者:女性消防団5名、自主防災会2名、地域防災リーダー6名、半田農業高校教員・生徒8名、半田市役所6名、半田市消防署2名、講師(西村氏:まちづくりプランナー)、名古屋都市センター1名、名古屋大3名、コンサル会社2名

開催場所:半田市内各所・半田市役所大会議室

プログラム概要:

- ▶市内防災拠点の視察
- ▶視察の振り返りと半田市の災害対応に関する意見交換
- ▶「防災サポーター」養成講座(対象者:12名)
- 参加者は、全員、消防団や自主防災会等に所属する女性で構成しました。
- 避難所運営ルール作成グループでは、以下のプログラムを実施しました。
- ▶避難所運営を考えるための視点に関する解説
- ▶地域特性の抽出練習(ハザード、リスク、避難場所、人口、外国人、企業等:タブレットの活用)
- ▶避難所に対するイメージ共有(現状の良い点と悪い点、将来のありたい姿と避けたい姿)
- ▶愛知県版避難所運営ルールの確認と地区版への改良点の抽出
- 一方、地域版震災シミュレーションゲーム作成グループでは、以下のプログラムを実施しました。
- ▶震災シミュレーションゲームの概要解説
- ▶既成の震災シミュレーションゲームの体験を通じた進行要領の理解
- ▶振り返りの要点解説
- ▶地域版震災シミュレーションゲームに向けた改良点抽出

【図11】収集した災害基盤情報の例



旧版地図・陰影図



浸水実績図



ハザードマップ(愛知県)

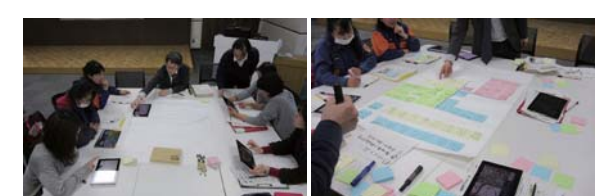


帰宅支援ルートマップ

⑦第1回WSの様子



(a)半田市内巡検



(b)避難所運営ルール



(c)震災シミュレーションゲーム

第2回ワークショップ⑧

日時：平成29年1月29日(日)9:00～12:00

参加者：女性消防団4名、自主防災会7名、地域住民5名、半田VCの会3名、防災リーダー1名、半田消防署2名、半田農業高校(ボランティア部)7名、半田市職員4名、講師(廣井准教授：東京大学、西村氏：まちづくりプランナー)、名古屋大関係者5名、コンサル会社1名

オブザーバ：防災科学技術研究所2名、半田市防災交通課3名、田原市1名、犬山市1名、幸田町1名、津島市1名

開催場所：半田市役所大会議室

プログラム概要：第1回WSに従った実習

- ▶地区版避難所運営ルール作成(2グループ)
 - ・避難所の課題洗い出しと重要ポイントの抽出
 - ・地区版避難所運営ルール作り
- ▶地域版震災シミュレーションゲーム作成(2グループ)
 - ・震災シミュレーションゲームの体験
 - ・地域のリスク抽出と地域版震災シミュレーションゲームの提案

第1回WSで、簡易的なマニュアルが無かったことや十分な時間を取れなかったこと、本来高度であるファシリテーション技術は伝えきれなかったため、ある程度サポートをしながらの進行となったこと等、様々な課題が抽出できました。しかし、本WS終了後の「防災サポーター」に対するアンケート調査結果(図12)では、参加者が皆さん積極的な方だったことでもあります。また、プレーヤとしての参加者にもアンケートを実施しましたが、このイベントについて、ほぼ全員が「満足した」・「どちらと言えば満足した」と回答しており、一定の成果があったと考えています。参加者が、積極的に、かつ楽しみながら取り組んでいたことが何よりであったと考えます。

次年度は最終年度として、犬山市で開催予定です。

【図12】2回のWS開催後の「防災サポーター」(12名)に対するアンケート調査結果

グループの話し合いを進行できましたか。



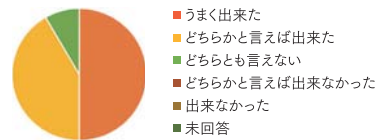
話し合いの時間配分はできましたか。



グループの意見をまとめる助言やサポートができましたか。



テーマに関する基礎知識は学べましたか。



グループでの話し合いの手順や心得を十分に学べましたか。



このプログラムに参加して如何でしたか。



今後、このようなWSに進行役として参加したいと思いますか。



このような防災に関するWSに参加した経験はありますか。



⑧第2回WSの様子



(a) 全体の様子



(b) 避難所運営ルール



(c) 震災シミュレーションゲーム



(c) 震災シミュレーションゲーム

5 平成29年度活動

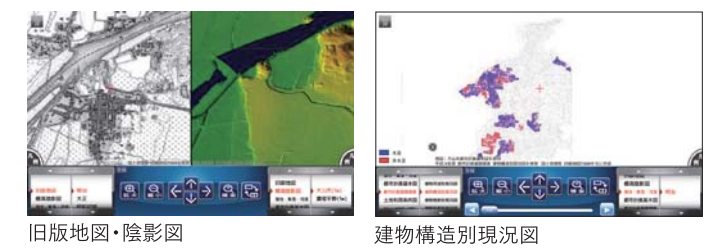
平成29年度は、犬山市を対象に実施しました。

犬山市は、犬山城や明治村などの観光施設が立地している観光都市です。近年の年間観光客数は大よそ570万人で、犬山市の人口の約80倍に相当します。この内、犬山城への年間観光客は約50万人に上ります。また、犬山市では、犬山城城下町付近に広域避難場所としての防災公園を新たに準備しており、次年度は当該地域を対象とした避難訓練を予定されていました。また、犬山市においては、観光客に対する災害時対応や防災意識の醸成が今後の検討課題となっており、住民の観光防災に対する意識も決して高いとは言えない状況にあります。そこで、観光防災の意識が高くない地域での取組みとして、次年度実施予定である防災訓練における観光客に対する訓練の実施を合意することを目的としたWSを行うことにしました。

また、例年通り、地域に存在する災害基盤情報を収集しタブレットに搭載する(図13)ことに加え、今年度は新機能を追加しました。具体的には、WSの進行に応じて表示すべき情報を予め検討しておき、それに従ってブックマークを作る機能です。収集する災害基盤情報に活用シーン(表2)の属性を付与し、以下の手順でブックマークを作ることが出来ます(図14a)。

1. ブックマークの名前を付ける。
 2. 活用シーンを選択する。
 3. 活用シーンごとに登録された災害基盤情報リストが表示され、2つに情報を選択する。
 4. 2画面で表示された2つの情報について、スケールや表示位置を調整する。
 5. ブックマークを保存する。
- これらをシナリオに応じて順に選んでいくことにより、効率的・効果的に情報を提供することを可能としました(図14b)。

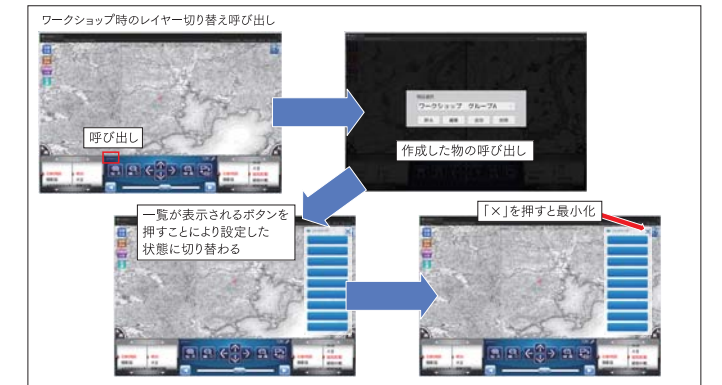
【図13】収集した災害基盤情報の一例



【図14】タブレットに追加した新機能(ブックマーク作成ツールの活用フロー図)



(a) ブックマーク登録の流れ



(b) ブックマークの利用の流れ

【表2】ワークショップで利用する災害基盤情報と活用シーン一覧(色付け部分は今回のWSで用意したデータ)

大分類	中分類	小分類	活用シーン
①地勢	1.旧版地図	明治、大正、昭和初期、昭和中期、昭和後期、平成	1.災害危険度の理解
	2.1991年頃のデータ	灌池、集落、旧河道	1.災害危険度の理解
	3.標高陰影図	5m DEM	1.災害危険度の理解
	4.航空写真		1.災害危険度の理解
	5.河川平均水位比較		1.災害危険度の理解
	6.活断層		1.災害危険度の理解
②被害想定	1.ハザードマップ	最大震度(南海トラフ過去地震最大、理論上最大)、液状化危険度(南海トラフ過去地震最大、南海トラフ理論上最大)、津波浸水深(南海トラフ過去地震最大、南海トラフ理論上最大)、濃尾地震、揺れやすさマップ、浸水想定区域	2.地域の災害リスクの把握
	2.浸水実績図	津波、内水氾濫、外水氾濫	2.地域の災害リスクの把握
	3.地域危険度	家屋倒壊危険度、火災延焼危険度、道路閉塞危険度、急傾斜地崩壊危険箇所	2.地域の災害リスクの把握
③地域対応力	1.都市計画基本図		3.まちづくり・復興計画
	2.都市計画基礎調査	建物構造、建物階数、建物築年	2.地域の災害リスクの把握
	3.土地利用条件図		3.まちづくり・復興計画
	4.人口	町丁目別、年齢別、男女別、日本人・外国人、昼夜間別、高齢者割合、人口流入・流出率、産業別、観光客数	4.災害時対応・避難者対応・帰宅困難者対応
	5.財政力指数		4.災害時対応・避難者対応・帰宅困難者対応
	6.公務員職員数		4.災害時対応・避難者対応・帰宅困難者対応
	7.施設情報	市役所、消防署、警察署、保健所、病院、診療所、観光施設、文化財施設、福祉施設、主な幹線道路(高速道路、一般道)、ガソリンスタンド、コンビニ	4.災害時対応・避難者対応・帰宅困難者対応
④防災対策	1.防災マップ	緊急輸送道路、地区防災マップ、帰宅支援ルートマップ、津波避難計画	1.災害危険度の理解
	2.防災施設	津波避難ビル、一時避難場所、避難所、福祉避難所、AED設置施設、飲料水兼用耐震性貯水槽、防災倉庫・水防倉庫、福祉避難所、津波避難ビル	4.災害時対応・避難者対応・帰宅困難者対応
	3.史跡・歴史マップ	史跡、図録、写真	4.災害時対応・避難者対応・帰宅困難者対応

●WSの実施内容は以下の通りです。

日時:12月16日(土)13:00~17:00

会場:犬山市役所 会議室

参加者:観光ボランティア:3名、犬山まちづくり株式会社:2名、観光協会:1名、観光交流課:2名、地域安全課:2名、地域住民(町会長):4名、防災リーダー会:5名、犬山高校生徒(市外通学、ボランティア部):8名、犬山市在勤者:1名の合計28名

WSでは、参加者を5グループに分けて以下の工程で実施しました。また、新たな試みとして、その場で各グループの中からファシリテータ(防災サポータ候補)を選定してもらい、名古屋大学関係者のサポートの元で進行役を務めていただくこととしました。

WSの工程は次の通りです。

1. アイスブレイク(あなたが観光先で地震にあったら一番心配なことを紹介)
2. タブレットの使い方講習
3. 犬山市のハザード・リスクの共有(地震を想定。新機能を搭載したタブレットを活用)
4. グループワーク1:犬山城周辺において地震発生時(直後~3日)に観光客に起こり得る出来事の洗い出し(⑨)
5. グループワーク2:観光客が安心して避難、帰宅してもらうために必要な対応の洗い出し
6. グループワーク3:観光客が安心して避難、帰宅してもらうためにやるべきこと・やれること(短期、長期)
7. 発表(⑩)

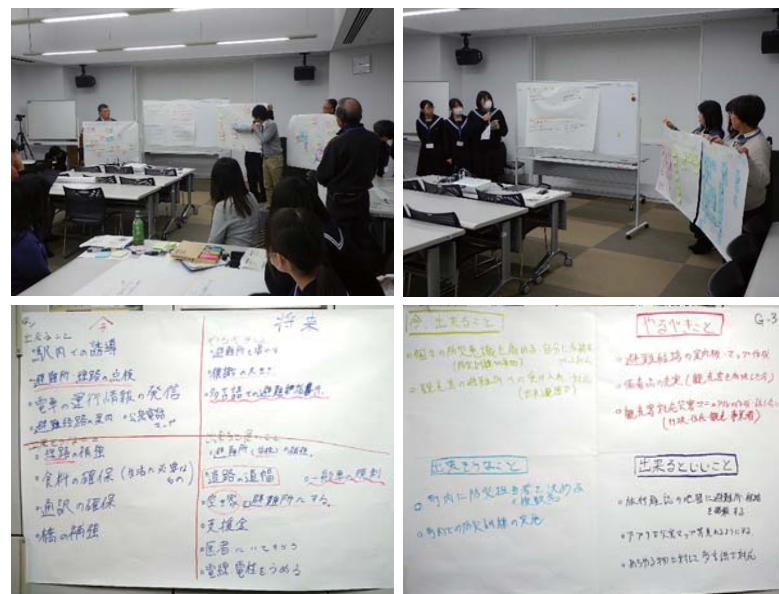
各グループの発表後、グループワーク3の成果をまとめ、次年度の防災訓練に実施可能な項目について、全員で話し合いました。その結果、①避難経路の案内、②観光客の避難所への受け入れ対応、③避難場所を知らせる、④地域住民による避難場所への誘導、⑤観光案内図・看板・パンフレット等への避難場所の掲載、⑥地域防災組織の充実と観光客を含めた誘導の6点が挙げられました。今後、実現に向けた活動を実施していくことが重要となります。

ワークショップ終了後に、参加者に対するアンケート調査を実施しました(図15)。アンケートでは、タブレットに関する感想、WSに関する感想、及び観光防災に対する意識について質問しました。その結果、大半の方によかったとの回答を得ることが出来ました。タブレットについては6割の方が使いやすかったと回答しており、今後の活用方法としては、学習・調査・研究や地域のまちづくりの活動を挙げる方で6割を占めました。進行役については、サポート役が進行役を担いすぎた状況も認められ、今回の試行は改善の必要があることがわかりました。目的であった、観光防災に対する意識の向上についても、変化があった、どちらかという変化があった、また、今後検討していくべき課題と回答しており、一定の目的は達成されたのではないかと考えます。

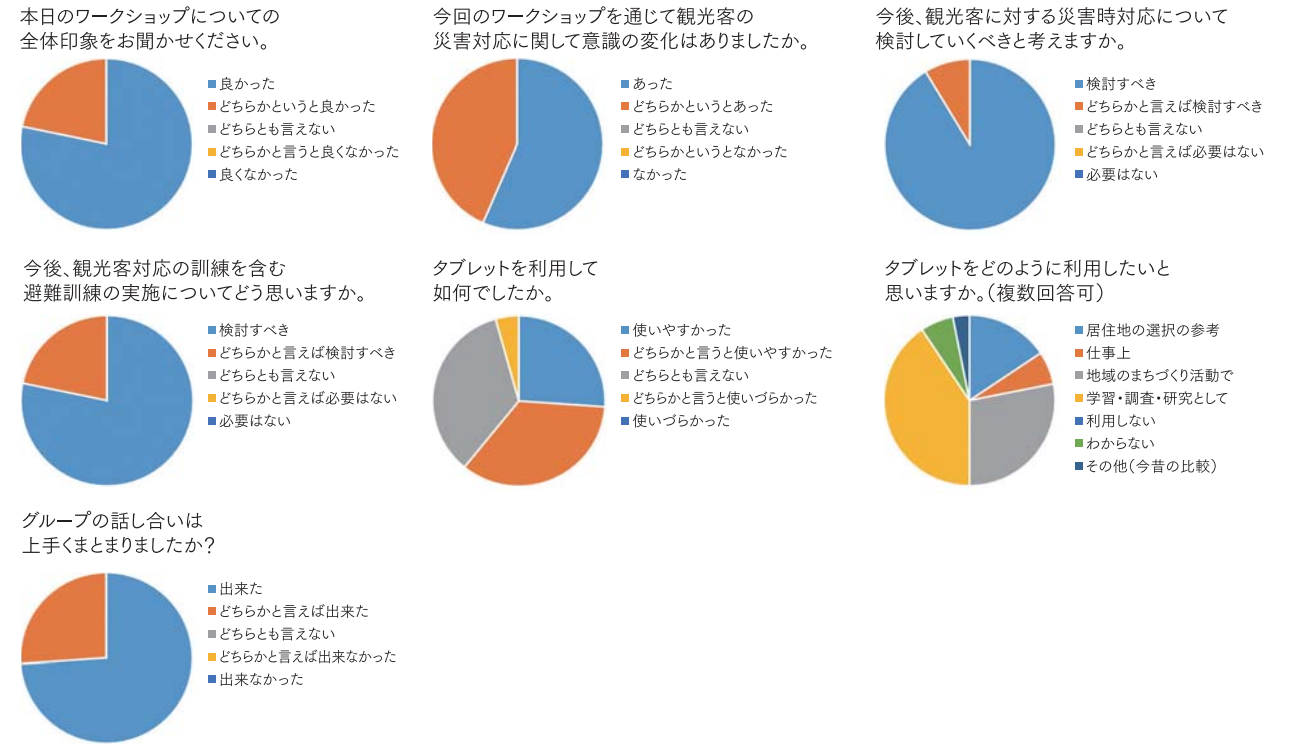
⑨グループワークの様子とその成果例



⑩成果発表の様子とその成果例



【図15】WS終了後の参加者に対するアンケート調査結果



6 5年間のまとめ

今回のプロジェクトで実施した5市町の概要を図16にまとめました。各地域で特徴的な項目について赤字で示してあります。産業や地勢、歴史の地域特性が直接反映された取組みになっていない年度もありますが、WSを実施するにあたっての情報付与やテーマ設定においては配慮しました。また、各取組みは、これらに加え、当時各自治体が抱えている課題や精力的に取り組んでいる活動にも着目し、それらの活動を支えること、あるいはこれを契機とした防災人材を発掘することを想定したケースもありました。

図16で示した項目は、活用の視点から、産業~WSの対象地域は、「①ハザードやリスク認識のための地域特性(もの)」、WSの対象地域・主な対象者は、「②防災人材発掘のための地域特性(人・場)」、WSの構成・内容は、「③取り組む課題設定のための地域特性(こと)」、WSの進行役は、「④人材の養成(実践)」の大きく4つに分類されると考えます。そして、①~③の関連からテーマや対象者を決定した後、地域に潜在する防災人材発掘のWSを実施することが大きな流れとなります。

【図16】5市町の実施内容と活用視点からの整理

	H25年度 田原市	H26年度 幸田町	H27年度 津島市	H28年度 半田市	H29年度 犬山市
産業	トヨタ、農業	デンソー、農業	紡績・ヨシヅヤ(大型店舗)	酢・酒、港	観光地・明治村・名鉄
地勢	半島	内陸、深溝断層	海抜0m地帯・液状化	軟弱地盤	山地
歴史	田原藩・波辺陣山(朝民倉)	島原・松平家・本光寺	津島神社(伝統的祭り)	伝統的祭り、新美南吉	町並み・犬山城・成瀬家
過去の災害	1707年宝永地震 1944年東南海地震	1945年三河地震	1891年濃尾地震 1959年伊勢湾台風	1944年東南海地震 1959年伊勢湾台風	1868年入鹿池決壊 1891年濃尾地震
WS対象地域	伊良湖地区、福江地区、神戸地区	深溝学区(異なるハザード、地域特性)	姪間小学校区(2年前から地区防災計画策定に向け活動中の1学区)	半田市内の複数の学区	犬山城(観光地)周辺地域
WSの主な対象者	自主防災会会長、防災リーダー、田原市職員 50~60代男性が主	深溝小学校関係者(PTA、小学生、校長、教頭、教員)、寺院副住職、幸田町職員 40代女性が主	姪間小学校区自主防災会、姪間小学校区住民、高校生(津島市内に通学)、地元のNPO	女性を中心とした消防員・自主防災会・消防署員・市役所職員・高校生	犬山市の観光関係者・犬山城周辺地域住民・高校生
WSの構成	グループワーク(3班)	まち歩き(参加)+グループワーク(4班)	震災シミュレーションゲーム(3班)+まち歩き-防災マップづくり(3班)	グループワーク(4班)	グループワーク(5班)
WSの内容	1. まちの再認識・気づき(長所・短所) 2. 現時点での課題 3. 将来への備え	1. まちの再認識・気づき(長所・短所) 2. 将来への備え 3. 自助、共助、公助の視点からの整理	1. 震災シミュレーションゲーム 2. 地域住民と合同の防災マップづくり 3. 地区版震災シミュレーションゲームの作成と実施	地域版避難所運営ルール作成、地域版震災シミュレーションゲーム作成をテーマとしたファシリテーター演習(体験と実習)	1. 現時点での課題 2. 今できること、将来すべきこと 3. 次年度避難訓練に向けての提案
WSの進行役	専門家(大学教員)	専門家(大学教員)、地域住民+専門家(サポート)大学教員	専門家(地元のNPO、大学教員)	上記対象者	WS参加者の中から選定し、専門家がサポート